



**自分がいることで、仲間の上達は加速しているか。
それとも、いないほうが加速するのか。**

「自分は上達したい」という無邪気な錯覚



その気持ちを持って練習に来ること自体は、仲間への貢献ではない。
その願いだけで、他者の時間を当然のように使ってよいわけではない。

練習空間は「有限な資源」の分配である



誰かが上達を諦めて去ると、残った人の打つ時間や指導を受ける機会が増える。これが冷徹な事実である。

目に見えない「他者の時間」に 支えられている

自分が説明を受けている間、
待っている仲間がいる。

自分のために使われた時間
＝誰かが自分の上達に使え
たはずの時間。



**自分の上達は、誰かが使わなくなった
時間によって成立している。**

無自覚に仲間の時間を奪う 「時間泥棒」 たち

同じ注意を聞き流す

準備をせず、周囲を待たせる

「考えています」と言いながら、
行動を変えない



仲間が次へ進めたはずの時間の喪失

「実力が低いから貢献できない」という決定的な誤解

今の実力

仲間への貢献

問題は、今の実力が
低いことではない。

問われるのは、受け取った時間を、
どんな行動で返しているかだ。

実力が低い人にも、
仲間の上達を
加速させる力がある。

あなたはどちらか？「時間を奪う人」対「加速させる人」

時間を奪う人

「考えています」で止まる

言い訳で時間を消費

準備不足で周囲を待たせる

「自分なりに頑張っています」

指導への反応

失敗した時

空間への意識

根底の意識

加速させる人

指摘されたら、すぐに試す

次の一本で即座に修正する

準備を整え、仲間の一球を大切にする

「自分がいてよかったと
思える空間をつくる」

チームを加速させる「3つの行動柱」

即時実行

「指摘されたら、
すぐに試す」

次弾修正

「失敗したら、
次の一本で修正する」

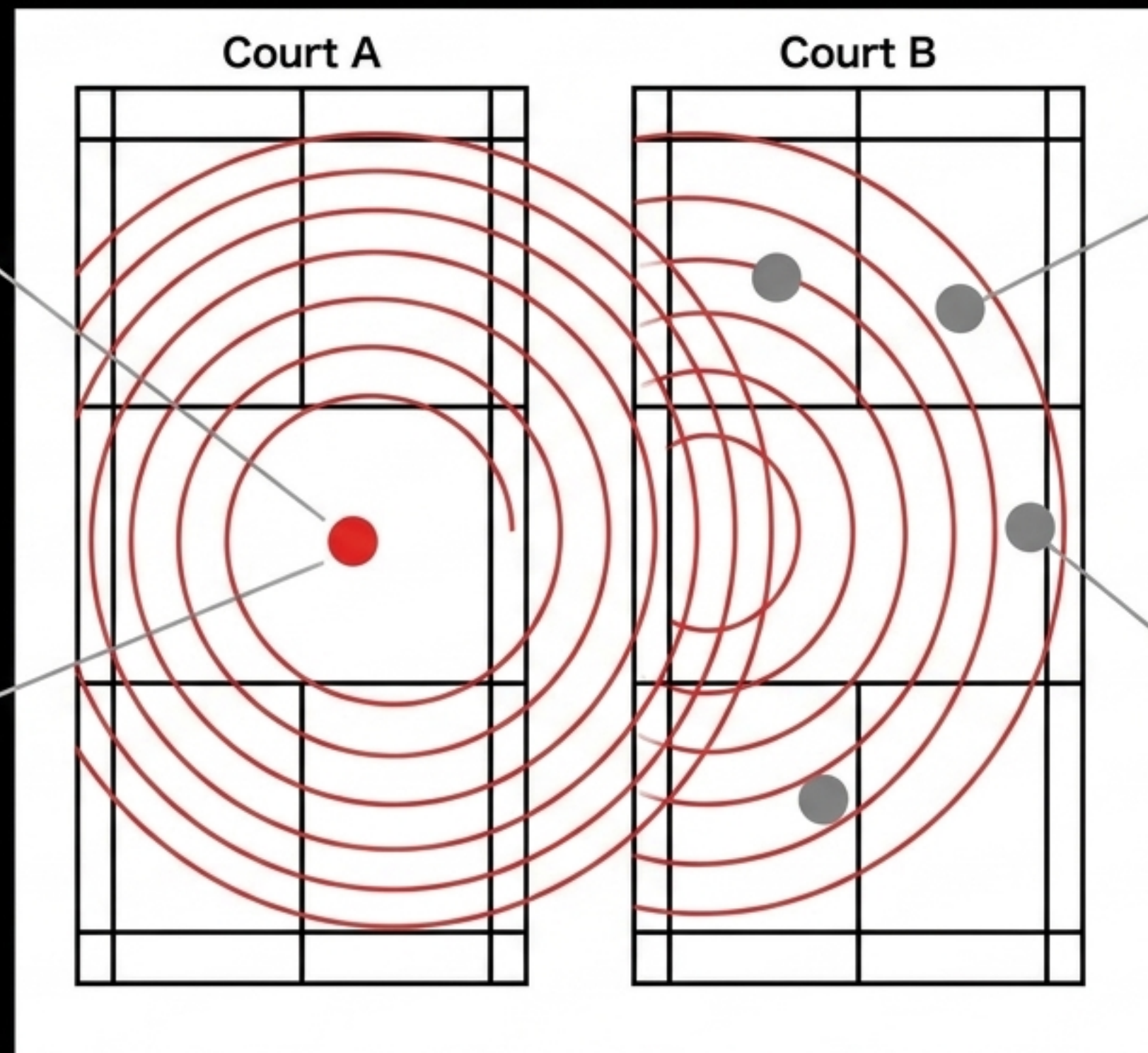
一球の尊重

「準備を整え、仲間の
一球を大切にする」

波及効果：一つの姿勢が、空間全体の熱量を引き上げる

1. 発火：失敗を恐れず、教わったことをすぐに試す姿。

2. 伝播：その姿勢が、隣のコートの中間の視界に入る。



3. 共鳴：周囲に「自分も変わろう」と思わせる刺激となる。

3. 共鳴：周囲に「自分も変わろう」と思わせる刺激となる。

まだ勝てなくても、練習の質を高める一人にはなれる。

貢献の真実：プレイヤーの真の価値を示すマトリックス

実力不足を理由に
「いないほうがいい」と逃げてはい
けない。
この領域こそが、
組織を最も劇的に
加速させる。

振る舞いの質
(時間を奪う人 ← → 加速させる人)

隠れた
着火剤

理想的
リーダー

空間の
停滞

才能ある
時間泥棒

競技力 (低 ← → 高)

「自分がいてよかった」と思える練習を、今日の行動でつくる。

誰かが去って生まれた時間も、残った仲間が差し出してくれる時間も、当然のように受け取らない。上達したいと願うなら、自分も誰かの上達を支える一人でありたい。

**自分がいることで、仲間の上達は加速しているか。
それとも、いないほうが加速するのか。**

これは、誰かを追い出す前に、自分自身へ向ける問いだ。